

# 函館短期大学の学生ボランティアによる地域経済効果

平成 28 年 9 月 26 日

## I. はじめに

函館短期大学の学生が行うボランティア活動はどのくらいの経済効果を地域にもたらしているのか。この問いに答えようというのが本レポートの目的である。学生が行うボランティア活動に関して、本学は平成 23 年（2011 年）3 月 11 日の東日本大震災を契機に、基礎教育科目「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」を新設して単位化した。それまで実態把握が難しかった学生のボランティア活動だったが、「ボランティア実習Ⅰ」および「同Ⅱ」の単位取得を希望する学生に報告書の提出を義務付けたため、本学学生のボランティア活動の実態の把握が可能となった。平成 27 年度中に提出された同報告書を分析した結果、本学の食物栄養学科と保育学科で、延べ 309 名の学生が各種ボランティア活動に参加、平成 27 年度中の学生の総ボランティア時間数は 2,260 時間に上り、1 年間の本学学生のボランティア活動による経済効果は推計で 1,932,080 円に上ることが判明した。

## II. 基礎教育科目「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」について

本学では、平成 23 年 5 月 11 日付けの文部科学省及び厚生労働省からの「東日本大震災に伴う各学校養成施設等における学生・生徒のボランティア活動に関する単位付与について」と題した事務連絡をもとに、学則を改正して平成 23 年度後期より基礎教育科目に「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」を新設し、本学学生によるボランティア活動を単位化した。

「ボランティア実習Ⅰ」は両学科の 1 年生の科目として、「ボランティア実習Ⅱ」は両学科の 2 年生の科目として設置した。「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」のいずれも、担当教員（学科長）が承認したボランティア活動の累積時間数が 30 時間以上となった場合に 1 単位を認定することとした。ボランティア活動の実態を正確に把握するため、ボランティア主催者などの確認印が押された報告書の提出を学生に義務付けた。

### Ⅲ. 集計方法と結果

平成 23 年度以降の「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」の単位取得者数は表 1 のとおりだが、報告書を提出したものの、単位を取得しなかった学生が多数いるため、平成 27 年度中に両学科長に提出された延べ 309 名分の報告書の分析を行った。(ボランティア活動の時間数の集計にあたっては、分単位は切り捨てた。例：4 時間 40 分の場合、4 時間として集計)。

表 1 平成 23 年度以降の「ボランティア実習Ⅰ」「ボランティア実習Ⅱ」単位取得者数

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
食物栄養学科 ボランティア実習Ⅰ	0 名	7 名	1 名	0 名	0 名
食物栄養学科 ボランティア実習Ⅱ	0 名	4 名	3 名	1 名	2 名
保育学科 ボランティア実習Ⅰ	6 名	12 名	9 名	26 名	33 名
保育学科 ボランティア実習Ⅱ	3 名	3 名	13 名	6 名	5 名

学生 1 人で、複数のボランティア活動に参加しているケースがあるため、延べ 309 名分の報告書が実際には何名の学生から提出されたものなのか、学生の実数を調べたとこ、表 2 のとおりであった。

表 2

人数	食物		保育		合計
学年	1	2	1	2	
延べ人数	0	4	233	72	309
学生数	0	2	54	32	88

平成 27 年度中の年間のボランティア時間数とボランティアを行った日数をみると、表 3 のとおりであった。

表 3

学科	食物		保育		合計
学年	1	2	1	2	
時間数	0	60	1684	516	2260
日数	0	12	328	144	484

本学学生のボランティア活動による地域経済に及ぼす経済効果を、平成 27 年度の北海道における最低賃金である 1 時間＝748 円で試算したところ、表 4 のとおり、ボランティア活動を時給換算した総賃金は 1,690,480 円となった。さらに 1 日＝500 円で交通費を試算したところ、交通費の総額 242,000 円となり、本学学生のボランティア活動による地域経済に及ぼす経済効果は、時給換算した総賃金と交通費の総額の合計で推計 1,932,480 円に上ることが判明した。

表 4

学科 学年	食物		保育		合計
	1	2	1	2	
賃金	0	44,880	1,259,640	385,960	1,690,480
交通費	0	6,000	186,000	50,000	242,000
合計	0	50,880	1,445,640	435,960	1,932,480

学生が参加したボランティア活動のうち、経済効果が高い順にその内容をみると、表 5 のとおり、1 位スポーツ教室、2 位幼稚園、3 位特別支援学級・学校、4 位スポーツ大会、5 位福祉施設の順番となった。

活動内容をみると、1 位のスポーツ教室は、障害児、障害者のスポーツ教室における教室開催の準備や後片付け、利用者支援など。2 位の幼稚園は、幼稚園の運動会の準備、後片付け、審判など。昨年の 3 位から上昇した。これは、特に運動会のお手伝い要請が多かったことによる。3 位の特別支援学級・学校は、同学級・学校に通う児童・生徒とともに実施する企画の手伝いなど。4 位のスポーツ大会は、函館市内で開催された函館ハーフマラソン大会でのスポーツマッサージの手伝い、ランナー誘導、受付、表彰係など。5 位の福祉施設は、主に福祉施設のバザー、お祭りの手伝いなどとなっている。

表 5

学科	時間数	日数	平均ボラン ティア時間数	賃金	交通費	合計
スポーツ教室	708	150	4.7	529,584	75,000	604,584
幼稚園	509	85	7.2	380,732	42,500	423,232
特別支援学級・学校	252	60	4.2	188,496	30,000	218,496
スポーツ大会	156	28	5.6	116,688	14,000	130,688
福祉施設	125	21	6.0	93,500	10,500	104,000
函館商工会議所 行事	119	38	3.1	89,012	19,000	108,012
小林豊子きもの学院45周年行事	92	27	3.4	68,816	13,500	82,316
保育園	53	11	4.8	39,644	5,500	45,144
児童館	45	8	5.6	33,660	4,000	37,660
障害者福祉	43	7	6.1	32,164	3,500	35,664
函館市行事	37	17	2.2	27,676	8,500	36,176
熱帯植物園	30	6	5.0	22,440	3,000	25,440
老人福祉	30	13	2.3	22,440	6,500	28,940
つどいの広場	28	8	3.5	20,944	4,000	24,944
病院・医療	17	3	5.6	12,716	1,500	14,216
函館青年会議所 行事	16	2	8.0	11,968	1,000	12,968
合計	2,260	484	4.8	1,690,480	242,000	1,932,480

#### IV. 評価

ボランティア参加に関しては、表1のとおり、保育学科学生の総参加時間数は2,200時間、97.3%と圧倒的多数を占め、実際の参加学生数も保育学科1年生54名、2年生32名で保育学科学生の総数は86名と全体の97.7%を占めた。その背景には、①保育学科では、コミュニケーション能力の向上など教育的観点から積極的にボランティア活動の参加を推奨している②平成26年度より、保育学科の学生を中心とした「ボランティア部」が発足し、学生が積極的に活動に参加している③幼稚園や保育園、特別支援学級・学校など授業の目的と関わる主催者からのボランティアの依頼が食物栄養学科より多いなどの理由があげられる。

一方、食物栄養学科の平成27年度の学生の実質的な活動参加人数は表1のとおり、2名に留まっており、今後、学科としてボランティア活動にどう取り組むのか検討する必要がある。

文責 松田賢一ボランティア実習担当教授